



モノづくりはとりあえず試す。
失敗でもこれがだめという
経験が得られます。

さかのべじげん
坂廻辺次元さん

第5回電気工事技能競技全国大会
高校生の部
銅賞（3位）

普段何気なく私たちが使っている電気。スイッチを押せば光ったり、動かしたりすることができずすが、それができるようにするためにはコンセントや電球まで配線を繋がないといけない。この技術を競う全国大会で、見事銅賞に入賞したのが名古屋市にある「名古屋たちばな高等学校」電気科出身の坂廻辺次元さんです。

坂廻辺さんは幼少期からモノづくりが好きだったといいます。折り紙を使って立体的なものをつくることから初めて、木工でゴム鉄砲、今では、はんだを使う電子工作まで行っています。

坂廻辺さんが、電気科を選んだのは祖父の影響がありました。電気のスイッチやコンセントなど家の中で壊れたところがあったら、自分で直しているその姿が格好いいと思ったそう、自分の進路を決めるときにその選択肢が出てきました。

高校に進学してからは、今まで手を付けたことのなかった電線をつなげたり、金属管を曲げたり、ネジを締めたり、新しい要素が出てきてよりモノづくりの楽しさを感じる事ができました。

実習等を通じて電気工事について学んでいくうちにもっと技術を磨き

たい、自分の技術を試してみたいという気持ちが湧いてきて電気工事技能競技大会に参加しました。最初に参加したときは愛知県大会で6位という結果でした。この悔しい結果をバネに更に技術を磨いて昨年、県大会、東海大会と勝ち抜いて全国大会（横浜アリーナ）に出場することができました。全国大会ではそれまでとは違い、使ったことのない材料が必要で、使い方から勉強する必要もありました。先生のサポートを得ながらもやりきった上で銅賞という成果につながったので喜びもひとしおでした。

高校を卒業した後は、電気工事の關係の仕事で働くことが決まっています。しばらくは、仕事や資格の勉強で忙しく過ごすことになるけれど、プライベートでのモノづくりは続けていきたいといいます。仕事を通じて得た知識や経験をモノづくりにどう活かしていけるか、それが楽しみですとお話いただきました。



▲配線に使うパイプの加工も自分でできるよう学んできました。